

佐事研だより

佐賀県公立小中学校事務研究会
編集発行人 会長 松本 賢次郎

会員各位

怒涛の一年だった2020年が暮れようとしています、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。今号は、11月24日（火）に開催されました佐賀県公立小中学校事務研究会セミナーについて、大好評だった各5分科会の概要のご報告です。

会長あいさつ

佐賀県公立小中学校事務研究会 会長 松本 賢次郎

会員の皆様におかれましては、感染症予防対策等でお忙しい中、佐事研の活動にご協力いただき、まことにありがとうございます。

先日の佐事研セミナーには多数の皆様のご参加をいただき、おかげさまで成功裡に終わることができました。参加された方がそれぞれの分科会で得るものがあつたと思っただけならば幸いです。そのために佐事研のスタッフ（特に研修企画部）は時間をかけて準備を進めてまいりました。この場ではありますが、その労をねぎらいたいと思います。スタッフの皆様たいへんお疲れ様でした。

そして一番には、分科会でそれぞれの知見や経験、信念を惜しみなく参加者にご披露いただき、新たな研修への意欲を喚起していただいた講師の皆様さまに感謝申し上げます。日々お忙しい中、無理なお願いにもかかわらず快くお受けいただいた講師の皆様には本当に頭が下がります。ある講師さんは、とある研修会後に駐車場で立ち話をして「その話すごく面白いので研修会で話をしてください」ということが始まりでした。このように我が佐賀県の事務職員の中には幾人もの魅力ある『講師』が隠れていらっしゃいます。これからも佐事研は、そのような方をクローズアップして会員の能力向上に努めて参る所存です。

今後とも、佐事研活動への参加をよろしくお願ひします。



第1分科会「服務の実務研修と教育行政職員のお仕事」

嬉野市立嬉野小学校 統括事務長 吉田俊生 様

今回、「なぜ教育行政職員も服務について学ぶべきなのか」を踏まえた上での服務の実務研修及び教育行政としてのお仕事とは何なのかについての2本立てで講演してくださいました。



◎服務についての実務研修◎

服務帳簿をもとに給与や旅費等の支給事務を行う事務職員には正しい服務の知識が必要。今回は今年度改正された、下記3つ議題＋各種服務の「注意すべきポイント」について、吉田統括事務長が心血を注いで作成された資料を用いてご講義いただいた。

1. 会計年度任用職員制度について（年休、休暇に関する服務）
2. 臨時的任用職員が共済組合会員及び互助会準会員となったことについて
3. 週休日の振替「二振」「六振」新設について

◎教育行政職員として◎

- ・標準的職務をどう考えるかが重要！

→教員の負担軽減は大切だが、単なる教育行政職員の負担増では現状は改善されない。

教員と教育行政職員でバランスをとって仕事を行うべきである。

✗「したくないからやりません」⇒ ○「だれがやるのがベストか」本質を考える

- ・業務への“こだわり”を持つ。こだわりを持てば業務の質が高くなる

↳ 根拠や知識が不可欠

↳ 研修会等で学んだことはすぐに整理し掘り下げて、次につなげる！

- ・最初から「できない」ではなく、「どうしたらできるか」を考えるために様々な視点を持つ
日々の業務で意識してほしい視点は5つ、

①自分 ②相手 ③第三者 ④過去の視点（経緯） ⑤未来の視点（影響、結果）

いまの活動がこれからの教育行政職員の未来を創る。

教育行政職員がどうなっていくかは、未来を想像しながら創造していくしかない



受講者感想

- ・実務について根拠も混じえながら深く知れたことが良かったです。
- ・事務職員は何でも屋さんではありますが、本来やることなのか年々モヤモヤが増えますが…
“こだわり”や“視点”がブレないように意識したいと思いました。
- ・教育行政職員のお仕事では、改めて自分が役職に応じた言動ができているのか考えさせられました。自分、相手、俯瞰、過去、未来の視点を常に持ち仕事をしたいと思います。
- ・学校に帰ってからもその資料を参考に勉強していきたいと思います。
- ・服務研修でしたが、たくさんの資料を頂いて、仕事の参考にします。再任用の年休や再任用短時間のケースなどさまざまなパターンがあり、かなり重宝する資料になります。
また吉田統括のこれからの教育行政職員に必要なことの講話など大変参考になりました。





第2分科会「いろいろな地区の共同実施をみてみよう」

伊万里市立南波多郷学館 事務長 井上浩子 様
多久市立東原座舎中央校 事務長 坂口 勲 様

事前に受講者にとられた質問をもとに、講師だけではなく受講者からも発言をもらい、まず各地区で“現在”取り組まれている共同実施内容をみなで共有し、次に共同実施の未来を創造することで共同実施の可能性を深め、最後に講師の井上事務長にまとめてもらいました。



第1部テーマ「あなたの地区（支援室）の共同実施をアピールしてください！」

多久支援室長でもある坂口事務長

- ・独自の支援室運営に係る自己評価を事務職員に取る
- ・毎年キーワードを設定するなど組織全体の向上を図る
- ・「多久スタイル」の実施（前期後期の垣根をなくした学校一体の事務室組織活動）

受講者

- ・佐賀市：「危機管理学習コーディネーター」を配置しての施設防災危機管理の取組み
- ・小城市：校長会を巻き込んでの「多忙化改善検討会」の取組み
- ・唐津市離島部：離島ならではの業務改善プロジェクトの取組み

第2部テーマ「未来の共同実施を創造して、あなたが思い描く共同実施とは？」

受講者

- ・テレワークやテレビ会議、AIなど革新技術を取り入れてのハード面の強化
- ・県立と義務制の垣根のない共同実施の運営、センター方式の導入、在籍校を決めずに毎日別の学校に勤務できるようにするなど制度変革
- ・事務作業にのみにとどまらず事務室を飛び出す事務職員の養成組織の確立

などがありました。

最後に、井上事務長にまとめをしていただきました。

- ・導入初期の共同実施は「ただ集まって仕事をする」という業務効率化の観点の手段だった。
- ・これからの共同実施は、より主体的に学校運営に参画し、教育全体の課題解決や資質向上にむけた取組みとなる。

共同実施は、時代と共に進化し続けるもの
一人ひとりが考え改善していく働き方が求められる

受講者感想

- ・他の共同実施の様子がわかって、異動先を考える際にも参考になる大変有意義な情報だった。
- ・日々の定形業務に留まらず、教育行政として研鑽を積もうとする活動内容を知れてよかった。
- ・私自身共同実施ではあまり発言をすることができていませんでしたが、小さいことでも意見を出すことが必要だとわかりました。
- ・高度なことはできないが、自分なりにどのように共同実施へ取り組むべきか考え続けたい。



第3分科会「教職員のライフデザインと教育行政職員」

小城市立牛津小学校 事務長 吉川仁之 様



教育行政職員として、金融リテラシーの向上を通じて教職員のライフデザインへの関わりを考えることで、今後の教育行政職員の在り方についてご講演いただきました。

金融リテラシーの基本的事項についてわかりやすく説明してくださったのち、教職員からの質問機会も多い「iDeCo」に焦点を当て、最後に教育環境トータルデザイナーとしての教育行政職員に必要なこととは何かをお話いただきました。

資産形成の基礎とは

- ・資産増には、株式等のリスク資産への投資が不可避
- ・元本割れの可能性はちょっとした工夫で軽減することが期待できる
- ・キーワードは「長期」「積立」「分散」投資。そして「非課税制度」

「iDeCo」を選んだわけ

- ・ライフデザインに必要な金融リテラシーの中心的存在として、金融庁が示す「最低限身に付けるべき金融リテラシー」の4分野全ての要素がちりばめられている
- ・iDeCoを理解することが金融リテラシーの基本を理解することにつながる

「iDeCo」を最適に運用するために

- ・分散投資を行うため、配分指定・変更やスイッチングし、様々な資産を組み合わせる（ポートフォリオを組む）
- ・定期的に一定額ずつ買付するドル・コスト平均法を取り入れ、価格変動リスクを変動さ、リスク低減と福利のメリットを長期投資で享受する
- ・各種の税制度優遇措置（非課税）により、投資効果も増幅され、投資期間が長ければ長いほど有利となる
- ・長期運用は少しのコスト差が大きな運用成績の差となるため、コストの安い金融機関等を選ぶことが重要

教育環境トータルデザイナー

- ・ハード的環境整備にとどまらず、ソフト的環境整備の視点も加え、教育環境を総合的に整備する者

クリティカル・シンキング

- ・正解は必ず用意されているもの、という既成概念に囚われないこと
- ・現実に真摯に向き合い、自ら考え答えを導きだそうとする能力、常識にとらわれない柔軟性、答えのない難問に立ち向かうための資質が求められる

教育行政職員は、法令を根拠に教育行政を執行することが職の基本！
法令順守はサービスの根本基準だが、法令に従うだけが我々に課された役割ではない。
法令が現実社会にマッチしていなければ、法令を変えていくのも我々の役割。
法令そのものを変えなくても、既存の枠組みの中で改善策も無限にあるはず。
クリティカル・シンキングを基礎とした深淵なるリベラル・アーツの世界に漕ぎ出し、
知的戦闘力を高め、明日の教育現場のために新たな価値を想像できる教育行政職員。
それこそが教育環境トータルデザイナーである。

受講者感想

- ・教育行政職員としての立ち位置から、金融リテラシーに着目した新たな在り方を考えさせられ大変よかったです。
- ・給与事務の一環として教職員からも質問される iDeCo について、これまでは詳細に勉強ができていなかった。金融リテラシーの基本から具体例まで学ぶことができ、非常に勉強になった。
- ・お金を取り扱う仕事なので、金融リテラシーについて知識を身に付けたいと思えました！ファイナンシャルプランナーの資格など、自分を向上させるために勉強してみたいと思えました！

第4分科会「イチから学ぶ標準報酬制度」

嬉野市立久間小学校 事務主任 吉田敬幸 様

まず、標準報酬の手引きとハンドリングマニュアルに沿って、基礎から丁寧に説明され、後半ではハンドリングマニュアルに記載の例を用いて、教職員課への報告方法など実務的な研修をしていただきました。

平成27年10月から共済組合に導入された標準報酬制ですが、日頃から該当する事例が少なく、義務制では導入時期が給与システムと同じ年だったため、標準報酬制に詳しい方が少ないのではないだろうかとお話されており、教育行政職員が知っておくべきポイント・注意すべきポイントを重点的に教えていただきました。



標準報酬制とは・・・掛金、給付金を決定するための制度、計算方法
導入前は基本給で算定していたが、

⇒導入後は手当をより厳密に調べることによってより実態に近い算定が可能となった

決定改定についての種類

- ①定時決定
- ②資格取得時決定 ※月の途中でも、給与の号級で算定される
- ③随時改定 ※改定は3条件満たしたら
(標準報酬の手引き第4章 p.6 (6)対象者の特例ア～ウ 参照)
条件1 固定的給与の変動
条件2 各月の給与支払い日数が17日以上
条件3 給与の変動月から3月間の報酬÷3の標準報酬等級に2等級以上の差がある
この3つを満たして初めて随時改定の対象となる!
- ④育児休業等終了時改定
- ⑤産前産後終了時改定



受講者感想

- ・研修資料にそって基本から丁寧に説明してくださり、とてもわかりやすかったです。勤務校だけでは事例が少ないため、実務する上でとても参考になりました。
- ・とても勉強になった。共同実施のメンバーに講義内容を説明し、共有したい。
- ・自分が何となく分かったつもりでいたけど、誤解していたことなど発見できてとても有意義な時間でした。講師の吉田先生、準備等大変だったと思います。ありがとうございました。



第5分科会「学校事務の効率化にコミットする

～唐津市事務効率化班の歩み～」

唐津市立伊岐佐小学校 主事 天川佑介 様



前半は、唐津市事務効率化班のこれまでのあゆみや活動実績、今後の展望などについてお話しいただきました。

後半は、業務の効率化とはなにか、効率化するためにはどのような方法があるかなどについてご自身の民間企業での勤務経験をもとにご講演いただきました。

それぞれの講演後には Web 形式での質疑応答が行われ、活発な意見交換の場となりました。

【唐津市事務効率化班】

- ・班員は4名で、現在は週に1回集まり終日活動を行っている
- ・取組内容：プログラム作成、就学援助関係事務など
⇒作成したプログラムは事務職員向け、教員向け、研修会用など多岐にわたる
- ・今後は ICT 支援、市教委と学校の橋渡し、慣習の見直しなどを検討中

【業務効率化について】

- ・業務効率化とは時間を短縮して業務を行うこと
⇒過去の自分と比べてどうか、というのがひとつの基準になる
⇒慣れは成長を止める要因となるため、効率化は自分の成長のためにも必要である
- ・効率化の方法：スケジュール管理、ショートカットキー、単語登録の活用（脱マウス）
フォルダ名の命名規則を作る、などがある
- ・「会議」は効率化が図りやすく、学校の会議でも事前に議題を確認・精査する、会議に集中する環境づくりをする、などの工夫をすることで会議時間の短縮が可能である



受講者感想

- ・脱マウスなどの具体的な方法は即実践できるもので大変参考になりました。
- ・学校事務としての経験を積むなかで、身近なことを見落としていたということに気づきました。いまいちど、自分の仕事を見直していきたいと思います。
- ・唐津の業務効率化班の活動を初めて知りましたが、唐津だけに留めるのはあまりに勿体ない内容でした。
- ・「hands up」というWEB形式を取り入れた受講者参加型のスタイルは、これからのセミナーの新しい在り方として、より有意義なものになる可能性を感じた。



編集後記

新型コロナウイルス感染防止の観点から全体会をしない“セミナー”という形式での研修会の開催となりましたが、実務に根付いた講義もあれば、教育行政職員とは何かと考えさせられるもの、我々のライフプランを熟慮するものなどバラエティに富んだ内容となりました。

アンケートでは、「すべての分科会に興味があった」「他の分科会内容を知りたい」との声も多数あり、佐事研だよりも分科会の概要を詰め込んだ内容としました。

今後とも、会員の皆さまの知的好奇心をくすぐる研修会やおたより発行を目指してまいります。

